

令和6年度 上田市立清明小学校 自己評価シート

後期 まとめ

学校教育目標			めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価							
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの育成」 ・心も体もたくましい子ども ・自分や友だちを大切に できる子ども ・自ら学ぶ子ども			①自主: 豊かななかかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ: お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び: 自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎからめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		重点目標から見つめてみると、「豊かさ」における活動の充実を感じている一方で「学び」における活動に係り、課題を感じていることがうかがえる。「挨拶をすること」や「履物をそろえること」など、日々の生活の中で「心をかけること」を大切にすると共に、「なかよし宣言」のもと、道徳や特別活動での授業やなかよし集会での学習を充実させるなど、年度当初より学校で心をついて児童支援にあつたことで来たことによると考えられる。一層の充実を図りたい。一方「学び」においては「学習課題や学びの共有」を課題に挙げている。目指す子どもの姿③に自ら見つけた課題とあるが、材や友の考えと、自分の思いや願いのズレを感じている子どもの姿から、問うている子どもの姿を見出し、「子どもの問い」として位置付けていく必要がある。また「探究的な学びの場」「ふるさと学習の推進」に係り、一歩外に出ると探究の材となる「ものひとつ」に溢れている本校の強みを活かし、積極的に外に出ると共に、題材の立ち上げや探究の在り方について職員間で情報を共有していきたい。							
			今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策	
			1	一人ひとりの個性を生かし、多様性を包み込む学級・学校づくり (自主・豊かさ)	学習や生活において、一人ひとりを大事にした支援・指導を進めることができた。個々の良さを広め、集団の中に位置づけていくことに注力していきたい。	15%	85%	0%	0%	引き続き、個々の子どもたちをとらえながら、集団に位置づける。また、良さを広げ、互いの良さから学び、集団の力の向上につなげるための手立てを考えた		
	2	「学びの主体者」としての子どもを育てる「ふるさと学習」の充実 (学び)	子どもの声をもとに学習が展開され、学びが広がった。半年、学年によって活動の展開が難しい状況も見られる。	27%	55%	0%	18%	子どもたちの声に耳を傾け、それを拾い上げて広げていく。そのために、それぞれの学年や担任がどんな活動をしているかを共有し、子どもたちが主体として学習を進める種をまける教職員集団を目指す。				
	対象	評価項目	評価の観点		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策		
重点目標	1 自主	「ふるさと学習」の推進	「ひと・もの・こと」と関わったり、実際に体験したりする活動を仕組むことができた。		低学年・中学年においては、生活科や総合的な学習の時間に、地域等と関わる学習が展開された。高学年は、既に位置付けている題材や行事等に時間を割く状況があり、独自の「ふるさと学習」の展開が難しい現状がある。	31%	38%	15%	8%	5年「米づくり」、6年「児童会を中心とした1年生や全校との取り組み」も、「ひと・もの・こと」と関わる活動ではあるが、子どもたちの願いに立っているかという点で厳しく自己評価している部分がある。他の活動を模索しつつ、今ある活動を子ども主体にするための策を考えることも検討したい。		
		児童会活動、係活動、靴揃えなどへの取り組みと成功体験の累積	子どもたちが、気づき、考え、自ら行動するような場を仕組むことができた。	子どもたちが見つけた課題について話し合う場を設けるなど、子どもたちが主体となって創り出す場を大事に進めていくことができた。	21%	79%	0%	0%	活動の目的や意味、何のために、誰のために、その活動によってどんな変化をもたらされるのかなど、子たちが考え共有する場を設け、活動そのものの形骸化を避け、子どもたちが主体的に活動できるよう支えていく。			
			様々な活動に、それぞれが取り組めるよう促し、個々の頑張りを認め励ました。	主体的に活動する姿を認め、活動意欲の向上を図った。活動の内容が工夫され、子どもたちの思いも高まった。それぞれは、活動しているが横のつながりが希薄である。	36%	50%	14%	0%	教師から子ども、子どもから子どもへと、互いの活動を承認し合う場の継続。互いの活動の情報交換や連携について共有していく場の設定を考え、より能動的な活動を目指すしたい。			
	2 豊かさ	人権同和教育の日常化	互いに認め合い、共に学び合うよさを感じられる活動を仕組むことができた。		なかよし旬間や日常の授業、毎日の活動において、人権感覚を鋭く持ち、互いのことを知ることを大事に指導してきた。小さな事象も、気を逃さずに人権感覚を鋭く持ち指導にあたりたい。	43%	57%	0%	0%	友との学び合いの中で理解を深めている児童も多いが、対話の中に積極的に入ることができず、学びが深まらないこともあり、相手の思いに立てない姿もみられる。様々な人権課題があることを教師が学び、子供たちとの生活の中で起こる問題に対応できるよう、研修・日常の情報共有を図る。		
		挨拶の充実と 思いやりの心の育成	挨拶や温かい言葉を大事にした生活指導や授業を行った。		否定的な言葉を使うのではなく自分の思いを伝えることを大事に指導してきた。暴言など言葉によるトラブルも減少傾向がみられる。また、挨拶リレーを取り入れるなど、子供同士のかかわりを大事にできたが、形骸化してしまう面あり。価値を共有したい。	36%	43%	21%	0%	上記項目同様、課題となる言動について、教師が気を逃さずに対応できるようにする。また、その時の子供の思いは大事に聞き取りながら、課題となる言動については、毅然とした指導ができる教師であるようにする。多くの職員でチームとして対応する。挨拶の意味を都度確認し、形骸化を打破する。		
		話し合い活動の充実	子どもたちが一人で考えたり、互いの意見を共有したりする場面を設け、自信を持って表現できるよう支援した。		ペアやグループでの活動、ICTを利用した考えの共有など、子供同士が関わる場面を積極的に設定していくことができた。互いの考えを共有する良さを感じたり、共有することによる思考や理解の深まりについては、子供たちの姿を見る目を養いたい。	14%	71%	14%	0%	子どもたちの思いや思考、その背景にあるものを見る目を教師が養っていく。授業を公開し、参観した職員による子どもの姿の具体を授業者と共有する。授業者一人では見切れない子どもたちの様子を共有し、そこにある子どもたちの動きから、授業づくりを進めたい。授業公開することの良さを体感できるようにしたい。		
	3 学び	学習習慣の形成	腰骨をたて、目・耳・心を使って話を聞き合う、学習に向かう姿勢を意識した指導を行った。		前期に比べ、授業に向かう姿勢の向上がみられた。学級学年の様子に応じた座席の並べ方を工夫し、集中して取り組める空間づくりをした。相手の話の聞き方(思い)をとらえて、自分と比べたりしながら聞く)についての指導を工夫したい。	0%	50%	50%	0%	形のための指導に終わらず、子供たちが互いの思いを聞き取り、自分の考えと絡めあいながら、自身の学習の深まりを感じられるような場にしていきたい。相手の話を聞きたい、知りたいという願いが生れるような授業づくりを、全職員で考えていきたい。		
		学習課題や学びの共有	子どもの言葉で課題を位置づけ、話し合う活動や考えを共有する場を設けて、学習の成果を実感できる授業を行った。		子どもの言葉で課題を位置付けていくことの難しさを感じている職員が多い。教師主導ではなく、子供たちから問いがうまれるような導入を考えていく必要がある。話し合いの場は、多く取り入れることができるが、目的を持った話し合いにすることが大事。	7%	29%	57%	7%	子どもたちが「なんで?」「どうして?」「もっと、知りたい。」「考えたい。」と思うような、これまでの学習とのズレや新たな発見を意図的に仕組む。子供たちの学習意欲を高めるための、授業展開について研究を深めたい。そのための研究体制の検討を行う。		
		探究的な学びの場	「ふるさと学習」(神樹の時間)では、子どもたちが発見し、実際に体験したり、粘り強く追究したりして、学びにのめり込むような場を設定した。		子どもたちの疑問や願いから、学習が立ち上がり、意欲的に学ぶ姿を引き出した。反面、学年の行事等に時間を割くことにより、子どもたちの願いに立った学習が展開できなかった学年もあり、評価が二極化した。	55%	9%	0%	36%	子どもたちの思いを拾い上げ、広げる力。教師の経験の差による学習展開へのためらい・不安感の解消。行事等の精選とかけの時間の見直し。各学年の活動を共有する場、先生方が自身の経験を語る場、子どもたちの願いに沿った活動を展開するための検討の場を位置付けて、学校全体として取り組みを強化する。		

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった